

日本民家園だより

特集 旧岩澤家住宅

vol.75

企画展示「神奈川の村 -愛甲郡清川村・岩澤家-」
2011年7月1日(金)～11月27日(日)
『日本民家園収蔵品目録15 旧岩澤家住宅』刊行

神奈川の山村

— 岩澤家の暮らし —

岩澤家 エンガワ (1987年6月撮影)

はじめに

神奈川県指定重要文化財の旧岩澤家住宅は、神奈川県ひがしたんざわさんかく あいごうぐんをよかわむらすの北西部、東丹沢山麓の愛甲郡清川村煤ヶ谷より、平成2年に民家園へ移築されました。小田急線本厚木駅からバスを乗り継いだ場所にある清川村は、周囲を山に囲まれた、現在神奈川県に残る唯一の村です。

清川村の総面積の93%は山林で、岩澤家でも周りの自然を生かした暮らしが営まれてきました。特に炭焼きは重要な仕事でした。また清川村ではお茶作りも盛んに行われており、岩澤家の裏山もかつては茶畑でした。少なくともはりましたが、煤ヶ谷には今も茶畑が残っています。

岩澤家の暮らし

移築前の岩澤家では、中央の広間は囲炉裏のあ

るイタノマと畳敷きのザシキに分かれていました。

ザシキはさまざまな用途に利用されました。基本的には子供が寝起きする部屋でしたが、オカニコやお産のときに使ったり、オヒナサマや盆棚を置いたりもしました。

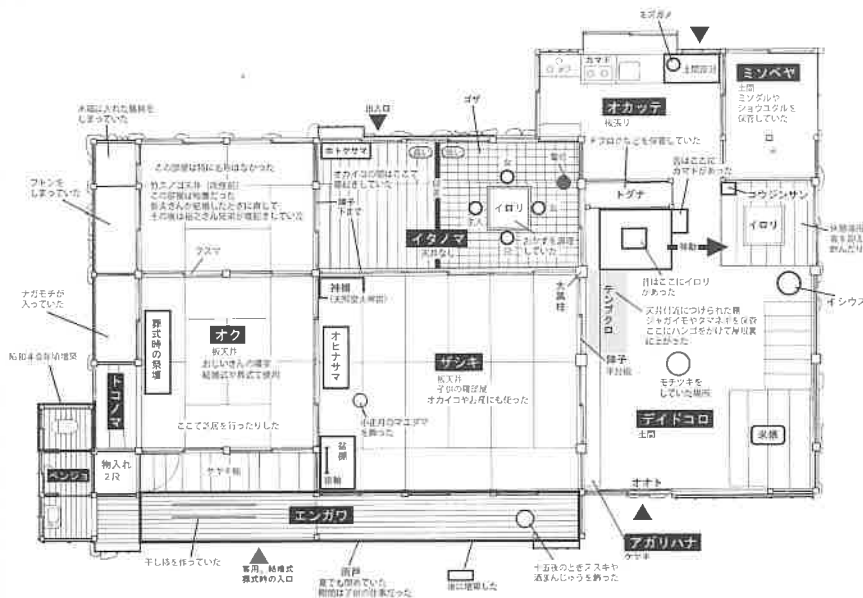
ザシキの左手にあるのがオクと呼ばれる部屋です。ここは結婚式や葬式などに使われていました。

移築前にはザシキとオクに接してエンガワがあり、ここは2回に分けて増築されました。オクに接した部分はケヤキ板でできており、毎朝顔が映るくらいきれいにみがいていたそうです。また、結婚式や葬式のときのお客様用の出入口にもなっていました。昔はここを舞台にして芝居などを行ったという話も残っています。

岩澤家の近くに井戸はなく、昭和40年代初めまでは水を汲みに川まで行っていました。水は朝と学校から帰ってから、子供が汲みに行っていました。川には石で区切りがしてあり、それぞれの

家の使う場所が決まっていました。歯磨きをするときも川まで行ったそうです。その後、養鶏を始めたため、水は山からひくようになりました。

清川村は山間部に位置しているため田んぼが少なく、お米はあまりとれません。麦がよくとれたため、夕食にはよくうどんを食べていました。また、周りには山の幸がたくさんあり、ワラビやフキ、タラの芽などもよく食べていました。おやつも自分の家で作っており、サツマイモを蒸かし



移築前の間取り (聞き取りによる)

て乾燥させたホシイモ等を食べていました。

このように岩澤家では、自然をうまく利用し、その場に合った自給自足の生活を送っていました。

(「はじめに」「岩澤家の暮らし」遠山健一朗)

岩澤家の生業

岩澤家で行っていた仕事は炭焼き、養蚕、畜産、鑑賞植物栽培、林業、お茶作りなど、多種多様でした。

炭焼きは主に男性の仕事でしたが、家の近くで焼いたときは女性たちも炭を運ぶのを手伝ったそうです。焼く場所は毎年変わります。年を経るごとに家の近くにある良い木がなくなっていくため、2時間以上かけて丹沢まで歩くこともありました。炭を焼くためのカマは自分で築きました。炭には白炭と黒炭の2種類あり、白炭は石のカマで焼きあがるまで1日、黒炭は土のカマで1週間ほどかかりました。白炭は毎日カマから取り出さなくてはならないため、黒炭をよく作るようになったそうです。泊まりで作業をすることはありませんでしたが、焼いている間は早朝の3時、4時に起きて夜道を出かけていきました。カマの火を消すことを「カマドメ」といい、このときは時間に関係なく夜中でも出かけなければいけません。雨が降ると炭を焼くことができませんが、完成した炭を運ぶため、天候によって休むことはありませんでした。炭を運ぶための炭俵を作るのは女性の役目でした。縄を縛うと手が荒れるため大変な仕事だったそうです。

岩澤家では蚕を育ててマユをつくるオカイコ(養蚕)を行っていました。ザシキの畳をすべて上げ、そこで育てていたため、その期間だけ女性はイタノマ、男性はオクで寝ていました。蚕が葉を食べる音は大きく、ザワザワという雨音に似ており、子どもたちは気持ち悪がっていたそうです。雨に濡れた葉を食べさせると蚕は病気になるため、雨が降りそうになると家族全員で取りに行

き、濡れてしまったものは家中に広げて乾かしていました。病気になった蚕は燃やしましたが、臭くて嫌なおいがしたといいます。黒くなってしまったマユは出荷できず、茹でて真綿にしたそうです。

岩澤家の主屋の前には、お茶作りの作業をするためのオチャゴヤがあり、そこで近所の人と一緒にしてお茶を作っていました。岩澤家と周辺の家では、お茶作りだけではなくさまざまな行事を近所の人と共同で行っており、その集まりのことをトナリグミ(隣組)とっていました。

岩澤家の信仰

岩澤家の敷地にはさまざまな神仏が祀られています。

主屋入口の向かい側の庭には、オキツネサマが祠に祀られています。この中には宝珠も納められており、これもオキツネサマの一部だそうです。

エンガワの前にある土手の下には小さな祠があったそうです。現在では灯籠状の石祠だけが残っていますが、何の神様を祀っていたかはわからないそうです。ただ、この祠の横は「カミサマの通り道」と呼ばれており、山に向かって進んでいくと尾根にはヤマノカミサマの祠があります。この道はカミサマだけが通る特別な道で、岩澤家の人たちがお参りに行くときは別の道を使いました。

敷地の外れにある竹藪の中には小川が流れており、そのほとりに2体の石造物があります。一つは石の祠で、その中には女性の顔を持つ人頭蛇身の宇賀神像が入っています。もう一つは直径約80cmのとぐろを巻いた大蛇です。岩澤家では両者ともペンテンサマと呼んでいます。現在はありませんが、石造物の近くには井戸があり、川とともに水の神様を祀ったものと考えられます。

(「岩澤家の生業」「岩澤家の信仰」畑山拓登)



現在の岩澤家入口



ペンテンサマ

岩澤家関係資料



ハライボウ

炭窯すみに入れた木を払い倒すもの。
棒の先につけて使用した。



金エブリ

ハライボウで倒した炭を炭窯から掻き出すもの。棒の先につけて使用した。



天コ背負機

長い木を縦にして背負うためのもの。炭焼きで使用した。



トラバサミ

小動物用の罠。道に穴を掘った所に置き、木の葉や土を薄くかける。



オオアシ

田に肥料を施した後、土中に埋めるため踏む。



ムギノカブワリ

麦に土をかぶせるもの。



ガンジキ

地下足袋の下に着ける滑り止め。
炭焼きで多く使用した。

日本民家園だより vol.75 発行：平成23年7月1日

川崎市立日本民家園

URL <http://www.city.kawasaki.jp/88/88minka/home/minka.htm>

〒214-0032 川崎市多摩区栴形7-1-1 TEL 044(922)2181 FAX 044(934)8652 交通：小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [11~2月]午前9時30分~午後4時30分 [3~10月]午前9時30分~午後5時 入園は閉園30分前まで

休園日 毎週月曜(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開園)、年末年始

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円(川崎市在住の方無料)、中学生以下無料